

学力向上の取組の充実

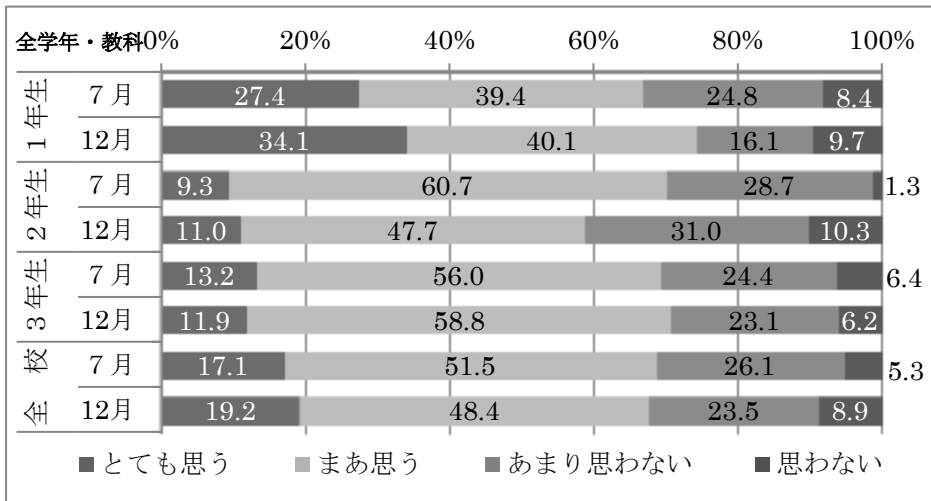
1 昨年度の取組

(1) 目標

学期末に行う生徒アンケートで、「日々の授業を通して自分の力が高まっている」と肯定的に回答する生徒が80%を上回る教科を全10教科（技術と家庭科を別の教科としてカウント）中8教科以上にする。

(2) 結果

① 生徒アンケート結果「自分の力が高まっていると思いますか。」（全教科の平均）



※ 肯定的な回答は67.6%で、80%を上回った教科は2教科でした。

② NRT 学力検査の結果（偏差値平均…全国平均が50になります。）

		国語	社会	数学	理科	英語
1年生	4月	※53.6	46.7	※53.4	52.1	—
	1月	52.4	↑51.6	51.7	↑55.6	49.3
2年生	4月	56.6	51.1	51.3	54.6	48.1
	1月	53.6	49.4	46.4	52.3	47.5
3年生	4月	54.6	52.3	51.4	54.1	48.6
	1月	50.4	49.0	47.8	50.7	↑49.5

※ 1年生の国語と数学（算数）は26年1月に実施したもの。

③ 家庭学習時間

市内中学校一斉の家庭学習時間の調査結果（1月12日～18日の1日平均時間）単位：分

	1年生	2年生	3年生	全校
佐渡市	60	57	121	78
畑野中	56	48	70	57

(3) 成果と課題

① 「自分の力が高まっている」と感じるのはどのようなときか予想すると、次のような状況や場面が考えられる。

- ア 授業の内容がよく分かったとき
- イ 課題に意欲的に取り組めたとき
- ウ 発言等ができたとき
- エ 先生に褒められたとき
- オ テストの得点がよかったとき

ア・イは教師の指導力や授業の進め方によるところが大きく、ウ～オは生徒の学習意欲や家庭学習への取組状況によるところが大きい。生徒と教師の双方による努力が必要である。

- ② 生徒が「自分の力が高まっている」と感じていても（主観的評価）、学力検査等で得点が低い場合（客観的評価）もある。
- ③ 家庭学習の時間は、佐渡市の平均もよいとはいえないが、それ以上に憂慮すべき状況にある。

2 今年度の取組

(1) 目標

NRT 学力検査において、学校平均偏差値が 52 以上にする。

(2) 手立て

① 教員が授業力を高める

- ア 生徒一人一人が学習の理解度や到達度の見取りをより確実に言い、UDL（ユニバーサル・デザイン）化のための取組を推進する。
- イ 全教科担任が、目標値に達しなかった教科・学年について授業改善の視点の妥当性と検証方法を検討する。
- ウ 教科担任同士の情報交換を定期的に行う。小学校とも連携し、自由な意見交換ができるようにする。
- エ 「分かる・できる授業」の実現に向けて、どの教科でも取り組める実効性のある改善策をたてて取り組む。

② 家庭学習を習慣化させる

- ア 1週間あたり、1・2年生は7時間、3年生は8時間を目標にさせる。これまでの取組を継続・強化していく。（国語、社会、数学、理科、英語を中心に、週末課題を提示し、取組状況を確認し、指導する。生徒の状況を教師が把握し、学年や教科を越えたサポートをする。）
- イ 佐渡市の中学校が一斉に行っている「家庭学習時間調査」の結果を、生徒・保護者に伝え、意識の高揚を図る。
- ウ 保健指導部と連携し、生活習慣の見直しと改善を図る。
- エ キャリア教育との関連をより深める。